



大月バイパス桂川橋上部工事

地域住民の方々の、より快適な生活のために



- 所在地 山梨県大月市坂瀬地先
- 発注者 国土交通省関東地方整備局
- 設計 大日コンサルタント(株)
- 工事概要 2径間連続PC2室箱桁橋
橋長/124m
幅員/11~13m
- 完成年月 2016年11月



地形条件と周辺環境に対応した橋梁

国道20号大月バイパスは、国道20号の山梨県大月市中心部における交通渋滞の緩和と歩行者の安全確保を目的とした全長3.2kmのバイパス整備事業です。一級河川桂川を渡河する橋長124mの2径間連続PC2室箱桁橋を、移動式作業車(ワーゲン)を使用して張出し架設工法で施工しました。

本橋は、48.450m+73.750mというアンバランスな支間割りを有する2室箱桁構造でした。不等径間構造に対応するため、張出し架設ブロック数が12ブロックと14ブロックと非対称なブロック割りとなっているほか、側径間閉合部もA2側では24.9mと長い構造になっています。長支間側であるA2橋台側の側径間は、比較的軟弱な桂川左岸に支柱式支保工を設置する施工条件でしたが、地盤試験の結果、支持力が不足することが判明しました。このため、支柱式支保工の基礎に仮設の深礎基礎を設けて支持力を確保しました。また、民家が近接しているため、様々な低騒音・低振動対策を講じて、周辺環境に配慮して施工しました。

現場の環境に合わせた最適な技術を採用し地域に配慮した施工を実現



東京支社 土木支店 土木部
一井 崇



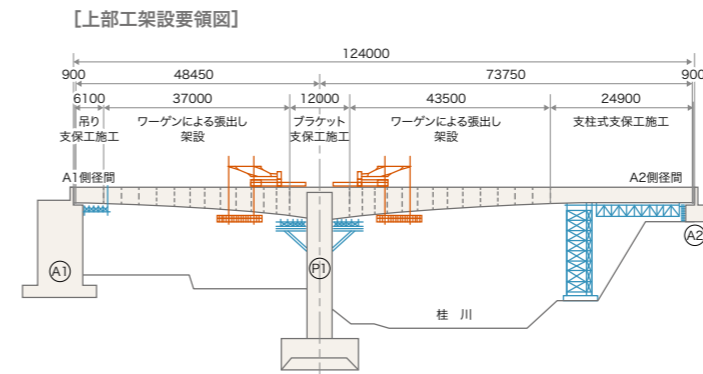
現場環境に合わせて最適な技術を採用

今回の工事で、以下の技術を採用しました。

■ **Iqシステム**(NETIS:HK-140003-A)
この足場は、1層の高さが1.9mと高く、安全に通行できるようになっています。また、先行手摺の設置も容易にでき、改正された安衛則にも適応し、安全で作業しやすい足場となっています。

■ **安定したPCグラウト作業**
誤差1%以内で計量でき、水量をデジタル表示で確認できる「高精度タッチパネル式水量計(NETIS:QS-160009-A)」を採用することで、安定したグラウト作業が実施できました。

■ **風速デジタル表示**
従来は、吹き流しを利用して風速を測定していましたが、その判定基準は曖昧でした。そこで当工事では、風速を安全掲示板にデジタル表示することにより、だれでも正確な風速を把握することができるようになりました。



Episode



土木事業本部 技術部
佐藤 千鶴

現場の良い雰囲気が高品質の橋に繋がる

2016年7月から10月まで、当現場の施工管理業務に従事しました。現場で日常的に行われている安全活動や事故対策、近隣の方々への配慮等を間近に見て、日々の小さな努力の積み重ねが無事故、無災害に繋がっていることを実感しました。また、夏場の熱中症対策として橋面に休憩所を設け、スポーツドリンクを配布しました。日常の作業員の方々や近隣の方々のコミュニケーションが、現場の良い雰囲気を作り、それが良い品質の橋をつくることにつながるということを学びました。また、上部工架設時のレベル計測も初めて経験し、こまめに正確に測量を続ける努力が、施工精度を高めるということが分かりました。完成した橋は大変きれいな仕上がりとなり、ものづくりの喜びを実感しました。

